

試案・沖縄絵画史年表

★
宮 城 篤 正

琉球国時代は中国はじめ周辺諸国と交易をして、富を蓄積すると共にそれらの国々から進んで文化を学び、消化吸収して香り高い独自の文化を築き上げてきた。有形、無形の文化の伝統は沖縄人の血となり、肉となって現在に受け継がれてきている。この伝統文化に対する自信と誇りは去る沖縄戦ですべてのものを失ないながら、廃墟のなかから見事に復興させた事例もある。それは沖縄の厳しい自然環境の中で鍛え上げられた強靭な精神と、歴史的背景、前述した進取の気性に富むことに起因することが大きいと考えられる。

観点をぐっと絞って沖縄の絵画についてみてもそのことがいえるかと思う。王国時代はかなり多くの画家が輩出ましたが、なかには中国へ派遣されて彼地の伝統的な絵画を学んで帰国した画家たちもいた。一方、薩摩の絵師からも絵を学ばせることもあった。したがって琉球の絵画の伝統には中国や日本の技術が導入されていたことがわかる。ところが王国末期になると文化衰退期を迎えて、絵画も低迷する。

明治30年代になると、東京美術学校（現東京芸術大学）で黒田清輝の指導を受けた山本森之助（1877～1928）が同校卒業と同時に県立第一中学校に赴任、いち早くあの当時旧派（脂派）に対して新しい絵画である新派（紫派）を沖縄にもたらしている。

山本のあとを受けて本土から何名かの新進気鋭の美術教師が赴任して、もっとも新しい絵画と指導法が伝えられた。それと同時に本土画壇の画家たちの来島も相次ぎ、沖縄をテーマに制作活動が展開される。このことは地元の画家たちに少なからず刺激を与えたと考えられる。

一方、沖縄地元からも東京美術学校へ進学する画学生も増え、沖縄画壇も充実発展していく。また、明治時代後半になると県内に「丹青協会」という絵画団体が結成されたのをはじめ、その後「ふたば会」、「南島美術協会」、「樹綠会」、「龍泉会」等が次ぎ次ぎと結成され、各々に展覧会を開催する。ところが、このように活況をみせていた沖縄画壇もすべて沖縄戦によって中断され、画家たちの尊い人命を奪い、貴重な作品のすべてを焼失してしまった。

戦争からやっと生きのびた画家たちが、やがて石川市東恩納めざして各地から集まってきた。誰もが肉親や子、知人友人を失ない、家財道具類の一切を焼失、失意のどん底にあった。終戦直後、東恩納にあった沖縄民政府のなかに文化部が設置され、そこで画家たちは教科書の挿絵書きを担当したり、米軍人相手に肖像画を描いて飢えを凌いだ。戦後の美術活動はそのような状況からはじめられたが、1948年、米軍の許可がおりて東恩納から首里西森に「美術村」を建設して移り住む。美術村の誕生の翌年(1949)、第1回沖展が開催されたのを皮切りに戦争で中断された絵画活動は再び息を吹き返し活発化していく。それ以後、個展、グループ展等の開催もしだいに増加して今日の隆盛を迎えるに至っている。現在、県下では国内展、個展、回顧展等が盛んに開催され、美術の水準も高い。沖縄の画壇を他都道府県と比較してみても決して劣るものではないが、今日の沖縄画壇の隆盛の牽引役を果したのはいうまでもなく、戦前の東京美術学校出身の画家たちであった。これら先

達たちは制作活動の他に大学での後進の指導にも力を傾注してこられた先生方ばかりであった。しかし、この2、3年来、定年退官組が増え、いまや指導者層の間で世代の交替が行なわれつつある。

それに沖縄は復帰十年目を迎え、前述した通り、絵画作品の発表と美術に対する一般県民の理解と関心もかなり盛り上りをみせている。画家は国内だけにとどまらず、最近では国際展への出品も活発化する傾向と、他方に画集の出版も増えている。現在、県立の美術館構想（総合文化センター建設構想の一環）も推進され、一方では県民アートギャラリー、平和祈念堂美術館などの開館も相次いでいる。

筆者は、去る昭和52年度に県教育委員会から県内に残っている絵画遺品の調査員を拝命し、その調査に参加したことがある。昭和53年3月31日付で報告書は刊行されたが、あの時、時間切れで調査出来なかつたものは個人的に調査は継続して行ない、その後に判明した絵画資料は紀要第5号（1979）で報告しておいた。

実はあのとき以来、沖縄絵画史年表を是非作成してみたいと考えてきた。ところが、いざ年表をまとめるとなると、正直いってなかなか大変な作業であることがわかつた。最初から根気強く資料収集の作業からはじめなければならなかつた。他の仕事との関係もあって、そればかりに集中して作業をする訳にもいかなかつた。今回もまた時間切れになつてしまい完璧を期すことが出来なくなつた。そこで今回は年表の骨格作りに主眼をおき、試案として発表することにした。細部については今後、加除訂正をしていきたいと思う。

なお、大筋において次ぎのことについて留意してまとめてみた。

- ①展覧会については筆者の判断で取捨選択をした。その場合、第1回展のみを記録したこと。
- ②受賞は原則として各展覧会の主なる賞に限定した。例えば沖展では沖展賞、県展では県知事賞に限った。しかし、項目数、他作家との関係で例外も認めたこと。
- ③沖縄タイムス芸術選賞の場合は大賞受賞者のみに限つた。
- ④近代では原則として戦前の東京美術学校または他美術学校出身者に限つて採用した。物故者はその限りではないこともある。
- ⑤戦前來島した本土画家は出来るだけ取り上げた。ところが、名前はわかつても来島年不明の場合は保留にした。なお、戦後は多いので終戦後の一時期に限り、他は割愛した。
- ⑥戦前、東京美術学校工芸科、彫刻科卒業生についてはここでは取り上げなかつた。いずれ次ぎの機会にゆづりたい。
- ⑦生年月日不詳で没年だけがわかつている場合は没年の欄にカッコ付で出身地を記入しておいた。名前だけわかつている画家については更に今後も調査を続ける。
- ⑧『琉球漆器考』は、佐渡山安豊との関係でカッコ付で記入しておいた。
- ⑨本年表は昭和57年1月現在で作成した。

以上であるが、先輩諸賢のご指導、ご教示を切に願うしだいである。

〈付記〉

本年表作成にあたり、①琉球歴代画家譜上・下（『美術研究』第45・48号所収）1936年、②『県内絵画遺品調査報告書』（沖縄県教育委員会）昭和53年、③『県内絵画遺品調査報告』（『沖縄県立博物館紀要』第5号）1979年、④南風原朝光・大城皓也・名渡山愛順・安谷屋正義・宮城健盛等の各画集、⑤『沖縄近代物故美術家展』（沖縄県立博物館主催）昭和49年、⑥『美術』（『沖縄県史』第6巻・文化2）1975年、⑦その他各展覧会カタログ等が有益であった。

なお、調査にあたっては多くの方々からご教示をいただきました。ここに衷心より厚くお礼を申しあげます。

〈試案・沖縄絵画史年表〉

西暦	日本	事項
1478	文明 10	この頃、画家さふくろ間得大君本殿の屏風絵を描く
1612	慶長17	毛泰運、保栄茂親雲上盛良を貝摺奉行に任す
1614	" 19	欽氏城間清豊（自了）生れる
1626	寛永 3	李基昌崎山親雲上喜俊生れる
1640	" 17	八重山藏元絵師2名を採用
1643	" 20	金武王子朝貞自了の絵を藤原安信に謹呈
1644	正保 1	自了死去（31才）
1645	" 2	崎山喜俊薩摩絵師染瀬清右衛門に師事
1648	慶安 1	崎山喜俊絵師となる
1653	承応 2	琥自謙石嶺親雲上傳莫生れる。 崎山喜俊筑登之座敷に叙せらる
1660	万治 3	崎山喜俊薩摩で雪舟派画法を学ぶ
1663	寛文 3	崎山喜俊黄冠に叙せらる
1666	" 6	查秉信上原筑登之真知生れる
1667	" 7	崎山喜俊北谷間切伊佐地頭となる
1671	" 11	崎山喜俊勢頭位に叙せらる
1672	" 12	呉師虔山口親雲上宗季生まれる（のち保房に改名）
1674	延宝 2	崎山喜俊南風原間切崎山地頭に転任
1675	" 3	查王蚕仲曾根筑登之親雲上真秀生れる。 查秉徳上原筑登親雲上、久米聖廟の壁画を描く（金闇丈夫著『琉球民俗誌』）
1678	" 6	石嶺傅莫絵師となる
1681	天和 1	石嶺傅莫筑登之座敷に叙せらる
1683	" 3	石嶺傅莫渡闌し「松竹菊花山水」を描く。 上原真知渡闌し王調鼎、謝天遊、孫億に師事
1684	貞享 1	石嶺傅莫、王調鼎、謝天遊、孫億に師事
1687	" 4	崎山喜俊死去（62才）。
1688	元禄 1	石嶺傅莫「墨絵山水」、「彩色山水」二幅を献上、上原真知帰朝 琥以祚石嶺親雲上傳福生れる。 上原真知筑登之座敷に叙せらる
1689	" 2	石嶺傅莫御茶屋能仁堂の壁画を描く。同年黄冠に叙せられ、絵師主取となる
1691	" 4	石嶺傅莫王女の御婚嫁御衣裳の下絵を描く 上原真知筑登之座敷に叙せられる。同年御書院御座絵を描く
1692	" 5	山口宗季絵師となる 石嶺傅莫、先王の肖像画彩色ならびに御照堂に絵を描く（翌年まで）
1693	" 6	上原真知も御照堂で肖像画を描く（翌年まで）
1697	" 10	石嶺傅莫先王尤人の肖像画を描く
1698	" 11	円覚寺仏殿壁画原作に彩色
1699	" 12	石嶺傅莫「松竹菊花山水彩色」の屏風絵を描く。
1700	" 13	石嶺傅莫勢頭座敷に叙せらる。 山口宗季筑登之座敷に叙せらる
1702	" 15	上原真知渡闌 上原真知帰朝途中遭難し死去（37才）

西暦	日本	事項
1703	元禄16	石嶺傳莫死去（46才）
1704	宝永1	山口宗季渡闊、孫億、順梁享、鄭大觀に師事
1705	" 2	山口宗季「花鳥図」を描く（蔽本公三氏蔵）
1707	" 4	山口宗季帰朝
1710	" 7	山口宗季絵師主取となり、勢頭座敷に叙せらる。同年今帰仁間切仲宗根地頭となる。 石嶺傳莫絵師となり、筑登之座敷に叙せらる。
		仲曾根真秀絵師筑登之座敷に叙せらる
1714	正徳4	仲曾根真秀黄冠に叙せらる
1715	" 5	山口宗季「花鳥図」を描く（大和文華館蔵）。 この頃、薩摩の画家木村探元「程順則像」を描く（福岡在、名護家の子孫蔵）
1716	享保1	山口宗季「白梅椿水仙小禽図」（在来国）、「山水図」を描く。同年、知念間切山口の地頭となる
1717	" 2	山口宗季円覚寺壁画の尚円肖像画を掛軸に転写（翌年完成）
1718	" 3	殷元良座間味庸昌生れる。 石嶺傳福黄冠に叙せらる
1719	" 4	山口宗季「仏桑花横物」、「鶴頭赤花堅物」、「デイゴ」各一幅を仕上げる
1721	" 6	山口宗季円覚寺の仏画制作、尚豊王・尚質王の肖像画を描く
1724	" 9	絵師等士籍に列せらる
1725	" 10	石嶺傳福「花鳥図」12枚、「山水図」2枚献上
1729	" 14	主取1人、絵師6人より絵師二人減ず、 殷元良画才を認められ禁中に収養される（12才）。山口宗季、殷元良に画技を伝授、 仲曾根真秀勢頭座敷に叙せらる 石嶺傳福「竹の図」を描く
1733	" 18	殷元良若里之子に叙せらる。仲曾根真秀死去（56才）
1734	" 19	石嶺傳福絵師主取となる
1737	元文2	吳著温屋慶名筑登之政賀生れる
1738	" 3	石嶺傳福、殷元良内間御殿碑文の文字、図柄等の仕事に従事
1739	" 4	石嶺傳福乾隆帝より拝領の額仕立てる
1743	寛保3	山口宗季死去（72才）
1744	延享1	石嶺傳福、貝摺、沈金彫物等新しい試みで御献上物、御用物を仕上げる
1746	" 3	殷元良黄冠に叙せらる
1747	" 4	石嶺傳福死去（60才）
1748	寛延1	殷元良「鶴図」を描く（大倉文化財団所蔵） 向元瑚小橋川朝安生れる
1752	宝暦2	殷元良渡闊し、翌年北京に赴く
1753	" 3	殷元良「山水図」を描く（正木美術館蔵）
1755	" 5	殷元良帰朝。この年尚敬王肖像画を描く 殷元良「山水図」を描く（石垣市 吉野成氏蔵）
1756	" 6	殷元良御書院御物当となる
1758	" 8	殷元良御近習役となる。 吳著温絵師となり、筑登之座敷に叙せらる
1759	" 9	殷元良座間味間切惣地頭となる 「片目地頭代肖像画」描かれる（喜久村絮輝氏蔵）
1761	" 11	大浜善繁生れる（八重山）

西暦	日本	事項
1762	宝曆12	殷元良「竹の図」描く(県立博物館蔵)。 張忠令島袋筑登之親雲上宗雍生れる
1764	明和 1	「琉球中山王使者登城行列図」2巻(県立博物館蔵)
1765	" 2	吳著温絵師となる
1766	" 3	向元瑚絵師となり、若里之子に叙せらる
1767	" 4	殷元良死去(50才)。 吳昆行屋慶名筑登之政喜生れる 慎思九泉州筑登之親雲上寛英生れる
1768	" 5	向元瑚絵師となる
1769	" 6	吳著温宮古御蔵筆者となる
1773	安永 2	伊是名広管生れる(八重山)
1774	"	向元瑚納殿筆者となり、同年黄冠に叙せらる
1777	" 6	翁宏熙伊良皆盛昆(萃峰)生れる 向廷楷宜野湾親方朝昆生れる
1779	"	吳著温仕上世座大屋子となる
1784	天明 4	向元瑚御物奉行仮筆者となる
1785	" 5	吳著温給地御蔵大屋子となる 慎思九絵師となり、筑登之座敷に叙せらる
1786	" 6	向元瑚御物奉行筆者相付となる 八重山桃林寺及び權現堂再建 馬執宏豊平良金(竹西)生れる
1787	" 7	張忠令絵師となり、筑登之座敷に叙せらる 毛世輝我謝盛保(筆山)生れる
1789	寛政 1	慎思九絵師となる 黒島仁屋八重山蔵元絵師となる
1790	" 2	伊是名広品生れる(八重山)
1791	" 3	慎克明泉州筑登之寛郁生れる
1792	" 4	向元瑚御物奉行筆者となる。 張忠令絵師となる
1793	" 5	慎思九絵師となる
1794	" 6	張忠令絵師主取となり黄冠に叙せらる
1795	" 7	向元瑚、尚穆、尚哲の肖像画を描く。
1796	" 8	慎思九絵師越勤に任命 吳昆行絵師となり筑登之座敷に叙せらる。 向元瑚、尚円より尚哲までの肖像画の控えを各二幅づつ仕上げる(慎思九加勢し、 張忠令助手となる)
1797	" 9	慎思九・吳昆行絵師詰越となる
1798	" 10	毛徳潤沢姫安長生れる
1799	" 11	吳昆行再び絵師詰越となる。 慎思九絵師主取となり黄冠に叙せらる
1800	" 12	吳著温死去(64才)。 翁成藩伊舎堂盛方生れる
1803	享和 3	向元瑚、尚温の肖像画大小二幅描く(慎思九加勢し、張忠令助手となる)。同年、 今帰仁間切平敷地頭となる
1804	文化 1	向元瑚御物奉行主取となる

西暦	日本	事項
1805	文化 2	向元瑚、尚成王の肖像画大小二幅を仕上げる（呉昆行・慎思九加勢をする） 呉昆行絵師となる
1806	" 3	慎思九絵師越勤に任命。 毛長禧佐渡山里之子親雲上安健生れる
1807	" 4	向元瑚、明年来島の冊封使の評価主取となる（兼山奉行）。 呉昆行絵師詰越となる。
1808	" 5	慎克明寛郁絵師となり筑登之座敷に叙せらる 毛允良亀川盛武(易齊)生れる。
1809	" 6	黒島仁屋唐船漂着の時、唐船及び碇泊所などの写生をして首里王府に報告（八重山） 向元瑚大美御殿大親に任命。 慎思九絵師主取となる。 慎克明絵師となる
1810	" 7	呉昆行絵師となり黄冠に叙せらる
1811	" 8	張忠令大台所大屋子となり、同年勢頭座敷に叙せらる
1812	" 9	慎克明絵師となる
1813	" 10	向元瑚西原間切小橋川の地頭に転任。同年申口座にのぼり、更に鍛治奉行となる。 慎思九大台所大屋子となり、勢頭座敷に叙せらる。 呉昆行絵師主取となる（勤役6年）
1814	" 11	慎克明絵師となる
1815	" 12	向元瑚御用意中取となる。同年御船手奉行となる 大浜善繁死去（55才）
1817	" 14	向元瑚、尚円より尚敬までの肖像画を彩色する
1818	文政 1	伊是名広管死去。 慎思九絵師主取となる
1821	" 4	慎克明死去（31才）。 張忠令御物大屋子となる
1822	" 5	慎思九「山水図」、「花鳥図」（2枚）他を描く 呉昆行宮古御藏大屋子となり、勢頭座敷に叙せらる 張忠令絵師となる。
1823	" 6	慎思九「山水図」を描く
1825	" 8	張忠令絵師主取となる 呉昆行死去（58才）
1826	" 9	毛徳潤死去（28才）
1828	" 11	慎思九仕上世座大屋子となる 向元瑚、尚育王即位（摶政）の大慶により紫冠に叙せらる。 張忠令「爬龍舟漕方之図」描く。
1829	" 12	毛長禧王命により「花鳥図」を描く 慎思九「那覇綱挽之図」を描く。
1830	天保 1	大宜味仁屋「馬の図帳」を描く（八重山博物館蔵） 向元瑚首里八景を描く。 慎思九座敷に叙せらる。 筆山死去（44才）
1831	" 2	八重山蔵元絵師喜友名安信生れる。 查盛薰仲曾根筑登之真裕生れる

西暦	日本	事項
1832	天保 3	向元瑚奥御書院の「龍図」を描く。 張忠令錢御藏大屋子となり、同年座敷に叙せらる 毛長禧若里之子にのばる
		「座楽並踊りの図」(絵巻)江戸で描かれる(筆者不詳)県立博物館蔵
		毛文達、古波藏安章(印山)生れる
1833	" 4	毛長禧「御馬図」「名馬図」(4枚)、「花鳥図」(4枚)を描く
1834	" 5	安仁屋政伊(ぜう林)生れる
		向有章宜湾朝宏生れる
1835	" 6	向廷楷死去(59才)
1837	" 8	毛長禧「尚灝王御後絵」を描く(翌年まで) 翁成藩死去(38才)
1838	" 9	張忠令死去(77才)
1839	" 10	「東任鐸肖像画」描かれる(知念政訓氏蔵) 毛長禧、尚円の肖像画描き替える
		9月「大虎絵」1枚、「花鳥図」9枚、「右旋白螺図」2枚、王命により描く(家譜)
1840	" 11	向元瑚「寿老人」「龍図」を描く 毛長禧御米御藏筆者となる
1841	" 12	向元瑚死去(93才) 毛長禧御寢廟の「唐御燈爐」一対、「二十四孝之図」12枚を描く、同年黃冠に叙せらる
		る
1842	" 13	毛長禧「仙人図」「鶴之図」各2枚を描く
1843	" 14	毛長禧「闕鶴隼(早房)之図」(元尚家蔵)「花房御鶴之図」を描く 查丕烈仲曾根真補生れる(没年不明)
		森五郎筆、応需写「琉球入京府行列之図」描かれる(大嶺薰美術館蔵)
1844	弘化 1	毛長禧「墨絵」20枚描く 慎思九死去(78才)
1846	" 3	毛長禧「彩色花鳥図」(4枚)「彩色仏朗西人之図」を描く
1847	" 4	毛長禧「仙人之図」(4枚)、「花鳥図」(4枚)を描く
1848	嘉永 1	馬執宏死去(63才)
		查盛勲絵師となり、筑登之座敷に叙せらる
1849	" 2	毛長禧「唐兎之図」(2枚)、「馬之図」(4枚)、「三毛猫之図」、「兎絵」、「矮鶴之図」 「鶴之図」、「白鷹之図」を描く。 翁宏熙伊良皆盛昆死去(70才)
1851	" 4	毛長禧「極彩色花鳥図」(2枚)、「薄彩色仙人図」(3枚)、「墨絵」(3枚)を描く
1852	" 5	毛長禧、尚育王の肖像画を描き替える(翌年まで) 查盛勲絵師となる
		孟有文長嶺宗恭(華国)生れる
		毛永保佐渡山安豊(竹庭)生れる
1853	" 6	尚其功宜湾朝範生れる
1855	安政 2	毛長禧米御藏大屋子となる 伊是名広品死去(64才) 查盛勲絵師となる
		毛長禧、尚元、尚永、尚純、尚穆、尚質の肖像画を描き替える
		同年当敷に叙せらる
1856	" 3	查盛勲絵師となる
1857	" 4	查盛勲絵師となる

西暦	日本	事項
1859	安政6	毛長禧、尚清、尚貞の肖像画を描き替える
1860	万延1	毛長禧、尚円王の肖像画の顔の部分の色塗り替える
1861	文久1	查盛敷絵師となる
1864	元治1	查盛敷絵師となる
1865	慶応1	查盛敷鍛冶奉行筆者となる 查丕烈絵師となり、筑登之座敷に叙せらる 毛長禧死去（60才）
1866	" 2	尚明徳義村朝義（仁斎、得寿）生れる
1868	明治1	島袋筑登之宗展「宜寿次盛安肖像画」を描く（宜寿次盛秀氏蔵） 比嘉盛清（華山）那覇市若狭町に生れる
1870	" 3	向有章宜湾朝宏死去（37才） 向基功宜湾朝範死去（18才）
1872	" 5	絵を学ぶ者の試業をする
1874	" 7	仲曾根真補（嶂山）「花鳥図」を描く（長嶺将秀氏蔵）
1875	" 8	安仁屋政伊琉球藩最後の絵師登用試験に合格する
1879	" 12	（廃藩置県）
1881	" 14	古波藏安章「蘭の図」を描く（県立博物館蔵）
1885	" 18	12月27日、山田真山那覇市壺屋町に生れる 9月16日、恵光翰友寄喜恒（石門）死去
1886	" 19	3月渡嘉敷唯選（衣川）那覇市若狭町に生れる 古波藏安章（印山）死去（56才）
		安仁屋政伊日本帝国絵画協会展で「鐘儀之図」入選する
1888	" 21	長嶺宗恭（華国）絵画展覧会へ「雪中山水図」出品する 比嘉華山「琉球人男女の図」を描く（県立博物館蔵）
1889	" 22	毛永保佐渡山安豊、木脇啓四郎『琉球漆器考』（石澤兵吾著）の図案を描く （『琉球漆器考』出版）
1890	" 23	毛允良亀川盛武（易齊）死去（83才） 比嘉華山美術協会展で二等賞受賞
		長嶺華国第三回内国勧業博覧会に「秋景山水図」を出品する
1892	" 25	神山里之子親雲上政成祥雲寺へ「絵馬」を奉納する（筆者不詳） 比嘉景常首里山川町に生れる 喜友名安信死去（62才）
1894	" 27	仲曾根嶂山「首里旧城之図」を描く（県立博物館蔵）
1894	明治27	5月27日 屋部憲（金隣）首里山川町に生れる
1896	" 29	7月2日 金城正栄大里村板良敷に生れる
1897	" 30	佐渡山安豊死去（45才）
1898	" 31	2月19日 島田寛平首里崎山町に生れる
1900	" 33	1月16日 嘉数能愛那覇市上之蔵に生れる 9月29日 我部政達那覇市に生れる
		浦崎永錫那覇市に生れる
1902	" 35	この頃、山本森之助第一中学校の図画教師として赴任 安仁屋政伊死去（68才） 山本森之助「琉球の燈台」を描く（東京芸術大学蔵）
		8月18日 山里永吉那覇市に生れる
1903	" 36	2月10日 宮城与徳名護市に生れる

西暦	日本	事項
1904	明治37	当原昌松久米島具志川村に生れる 9月21日 津山彬生れる
1906	" 39	2月6日 南風原朝光那霸市安里に生れる 4月26日 末吉安久首里儀保町に生れる 6月5日 永丘智行首里に生れる 9月30日 宮城清栄南風原町宮平に生れる
1907	" 40	1月22日 名渡山愛順那霸市松下町に生れる 比嘉華山美術協会展で三等賞受賞 山田真山 東京美術学校入学（彫刻科、日本画科で学ぶ） 2月28日 森田永吉、八重山石垣市に生れる
1908	" 41	比嘉華山 美術協会展で三等賞受賞 山田真山中国北京芸徒学堂の彫刻科、图案科の教授となる 9月30日 山里将聖首里に生れる
1909	" 42	金城唯貞（南海）第1回丹青協会展へ「獅子の図」（墨絵）を出品する 山口瑞雨第1回丹青協会展へ「稻雀」を出品する 3月 新川唯盛那霸市に生れる
1910	" 43	西銘生楽第2回丹青協会展へ出品する（作品名不明） 親泊英繁第2回丹青協会展へ出品する「風景」を出品する 山口瑞雨第2回丹青協会展へ出品する「猫」「山水図」を出品する
1911	" 44	比嘉華山第3回丹青協会展で一等賞受賞 2月10日 大嶺政寛那霸市松下町に生れる 10月5日 富川盛智首里に生れる
1912	大正1	比嘉華山第4回丹青協会展で一等賞受賞 1月1日 宮平清一渡名喜村に生れる 4月14日 大城皓也那霸市に生れる 12月10日 金城安太郎那霸市住吉町に生れる この頃、山口瑞雨「程順則肖像画」（原作者不明）を模写か（？）
1913	" 2	9月8日 柳光觀（本名伊佐清吉）首里汀良町に生れる
1915	" 4	5月13日 山元恵一那霸市西村に生れる 7月16日 榎本正治生れる
1916	" 5	11月23日 宮城健盛南風原町宮平に生れる
1918	" 7	12月5日 安次嶺金正名護市宮里に生れる 満谷国四郎「島の女」を制作（尚家所蔵）
1919	" 8	この頃、小杉未醒（放庵）『日本風景版画』第7集「琉球の部」取材のため来島 4月27日 玉那霸正吉那霸市下泉町に生れる
1920	" 9	満谷国四郎「島と人と馬」を制作（尚家所蔵） 8月 第1回ふたば会展開催（渡嘉敷唯選（衣川） 野津久保、知念積吉、島田寛平、山里永吉 浦崎永錫、新崎新太郎、前中留吉等出品）
1921	" 10	8月26日 安谷屋正義東京滝野川に生れる 鎌倉芳太郎沖縄県女子師範学校、県立第一高等女学校の図画教師に赴任
1922	" 11	西銘生楽死去（那霸市若狭町出身）
1923	" 12	山里永吉日本美術学校入学（2年次編入）
1924	" 13	竹島景明東京美術学校卒業 4月 鎌倉芳太郎琉球芸術調査のため来島 山田真山聖徳記念絵画館壁画「琉球藩設置」を制作（開館は大正15年）

西暦	日本	事項
1925	大正14	3月 嘉数能愛東京美術学校西洋画科卒業 3月 我部政達東京美術学校西洋画科卒業 9月 宮城与徳サンディエゴ官立美術学校卒業
1926	昭和1	山里永吉の作品が『近代の美術』紙上に掲載される
1927	" 2	6月12日 渡嘉敷唯選死去
1928	" 3	森田永吉同舟舎絵画研究所で学ぶ この頃、比嘉華山「婚姻風俗図」(額装一対)を描く(県立博物館蔵)
1929	" 4	南風原朝光、名渡山愛順那霸で二人展開催 長嶺華国「芭蕉の図」を描く(県立博物館蔵) 南風原朝光日本美術学校卒業 『世界美術全集』(平凡社)に琉球の美術掲載される
1930	" 5	8月 名渡山愛順「泰西名画模写展」(個展)開催 長嶺華国「芭蕉の図」を描く(中野成氏蔵)
1931	" 6	南風原朝光、白日会賞受賞 新川唯盛大潮展にて特選 浦崎永錫『美術界』を創刊する
1932	" 7	長嶺宗恭死去(81才) 名渡山愛順東京美術学校油絵科(和田英作教室)卒業 沖縄美術協会結成、東京神田の三省堂画廊で第1回展開催(出品者、南風原朝光 大城皓也、兼城賢章、森田永吉、新川唯盛、当原昌松、仲間武)
1933	" 8	山崎省三来島
1934	" 9	大城皓也東京美術学校油絵科(小林万吾教室)卒業
1935	" 10	この頃、河原修平来島「南国・辻情緒」など制作する
1937	" 12	津山彬大潮展初入選 伊藤清永来島以後昭和15年までに四回来島し制作する
1938	" 13	10月29日 野津唯尹(久保)死去(那覇市若狭町出身) 山元恵一東京美術学校油絵科(田辺至教室、小林万吾教室)卒業 仲嶺康輝多摩帝国美術学校西洋画科卒業
		南風原朝光の案内で藤田嗣治、加治屋隆二、竹谷富士夫来島 斧山万次郎来島「守礼門」、「首里風景」など7点制作する
1939	" 14	10月29日 比嘉盛清死去(69才)
1940	" 15	大嶺政寛春陽会賞受賞 金山平三来島
1941	" 16	比嘉景常死去 名渡山愛順第28回光風会展で三星賞受賞
		3月 宮城健盛東京美術学校圓画師範科卒業 6月 南風原朝光個展開催(会場 那覇市内山形屋) 12月 安次嶺金正東京美術学校油絵科卒業
1942	" 17	南風原朝光第1回台日文化賞受賞 大嶺政寛文部省展に賛助出品する
1943	" 18	南風原朝光国画会賞受賞 8月2日 宮城与徳死去
1944	" 19	9月 安谷屋正義東京美術学校工芸科图案部卒業 9月 玉那覇正吉東京美術学校彫刻科(石井鶴三教室)卒業
1945	" 20	3月14日 尚明徳義村朝義(仁斎・得寿)死去

西暦	日本	事項
		6月18日 宮城清栄死去
		終戦直後、東恩納に文化部が設置される（美術家が集まり）、教科書の挿絵描き、美術活動開始される）
1947	昭和22	沖縄美術家協会設立（共同アトリエと陳列館完成） 宮平清一貯金会員賞受賞 大嶺信一第1回個展（戦後沖縄における第1号の個展）
1948	" 23	首里儀保町(西森)に美術村が誕生
1949	" 24	第1回沖展開催（7月2日～14日）
1950	" 25	宮城健盛米国民政府主催全琉球美術展で受賞 琉球大学に美術工芸科が設置される 第1回5人展開催（3月31日～4月2日）【第9回展まで開催、1954年11月25日解散】 9月4日 金城正栄死去
1951	" 26	名渡山愛順・大嶺政寛第2回国民指導員として米国美術界視察
1952	" 27	屋部憲死去
1953	" 28	山田真山『沖縄絵物語』（第1巻）出版 名渡山愛順・大嶺政寛等の提唱で「1955年協会」結成（55年解散） 琉米親善絵画展開催
1955	" 30	山田真山『沖縄絵物語』（第2巻）出版 島田寛平沖展で美術功労賞受賞 大嶺政寛春陽会賞受賞
1956	" 31	安次嶺金正第15回創元会賞受賞 沖縄美術家連盟結成、10月に第1回展開催 11月 美縁会結成第1回展開催 慶田喜一第16回創元会賞受賞 二科会沖縄支部結成
1957	" 32	新川唯盛大潮展特選 安谷屋正義第34回春陽会賞受賞 山田真山「平和観音像」（のちの平和祈念像）制作に着手 7月26日 宮平清一死去
1958	" 33	棟方志功板業展開催（12月3日～6日）主催・沖縄タイムス社 1月17日 自了筆「白澤之図」県の有形文化財（絵画）に指定される（米須清方氏蔵） 第1回創斗展開催（1月11日～13日）
		6月 安谷屋正義「抽象絵画の展開」展出品（国立近代美術館） 鳥海青児滌欧素描展開催（沖縄タイムス社主催）
1959	" 34	末吉安久第33回国展「いきもの」（40号）入選 12月25日 嘉数能愛死去 儀間比呂志行動展新人賞受賞
1960	" 35	12月3日 岡本太郎来沖 地元の画家、琉球大学美術工芸科学生と語る 第1回琉球美術展開催（3月11日～14日）昭和会館1階ホール 1959年度選抜秀作美術展開催（4月1日～10日）朝日新聞社、沖縄タイムス社共催（会場 沖縄タイムスホール） 9月28日 安谷屋正義米国ロックフェラー財团基金により、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア諸都市の美術視察 10月4日 山里将聖死去

西暦	日本	事項
1961	昭和36	琉球政府主催「沖縄選抜美術展」ハワイ ホノルル市で開催 与儀達治第7回一陽会特待賞受賞 1960年度選抜秀作美術展開催(朝日新聞社・沖縄タイムス社共催) 9月28日 南風原朝光死去(58才) 神山泰治第13回沖展にて沖展賞受賞
1962	" 37	「明治・大正・昭和洋画巨匠展」開催(2月1日~8日)会場、沖縄配電ホール グループ耕第一回展(会場 沖縄タイムスホール)
1963	" 38	仲地唯涉第14回沖展にて沖展賞受賞
1964	" 39	丸山哲士第15回沖展にて沖展賞受賞 山田真山第1回琉球新報賞(美術に関する功績)受賞 2月16日 我部政達死去 3月26日 榎本正治死去
1965	" 40	儀間朝健第16回沖展にて沖展賞受賞 与儀達治第11回一陽会友賞受賞 8月 第1回全琉教師美術展開催
1966	" 41	渡慶次真由第17回沖展にて沖展賞受賞 2月28日 森田永吉死去
1967	" 42	渡慶次真由第18回沖展にて沖展賞受賞 大城皓也、大嶺政寛、安次嶺金正、安谷屋正義、玉那霸正吉、第1回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞 大城皓也二科会展員努力賞受賞 宮城与徳遺作展開催(5月東京銀座精美堂画廊、7月大阪東宝画廊) 沖縄旺玄会結成 第1回沖縄旺玄展開催 7月29日 安谷屋正義死去 12月28日 島田寛平死去
1968	" 43	新城美代子第19回沖展にて沖展賞受賞 4月20日『南風原朝光遺作画集』出版(南風原朝光遺作画集刊行会) 亜熱帯派結成 美術村の消滅
1969	" 44	大浜英治第20回沖展にて沖展賞受賞 永丘智行死去
1970	" 45	8月8日 名渡山愛順死去(65才) 沖縄現代画家秀作展開催 10月4日~20日(琉球新報社主催)
1971	" 46	第1回沖縄新象展開催(会場 沖縄タイムスホール) 山里永吉第7回琉球新報賞(沖縄の文化に貢献)受賞 名渡山愛順遺作展開催(8月10日~15日)会場、琉球新報ホール 喜久村徳男旺玄会賞受賞 金城規克第45回国展新人賞受賞
1972	" 47	田場博文第23回沖展にて沖展賞受賞 12月『沖縄の芸術家たち』(仲泊良夫著)出版 宮城健盛第6回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞 8月 光陽会沖縄支部結成、9月結成記念展(会場 沖縄タイムスホール)
1973	" 48	金城規克第46回国展新人賞受賞 山元恵一第7回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞 第1回美術展覧会(県展)開催(県教育委員会)

西暦	日本	事項
1974	昭和49	5月 石嶺伝郎新世紀美術協会展 S氏賞受賞 『安谷屋正義・絵と文』出版(安谷屋正義作品集刊行会) 『岡田青慶日本画・画集琉球』出版 比嘉武史第25回沖展にて沖展賞受賞 沖縄近代物故美術家展開催(2月23日～3月17日)沖縄県立博物館主催 3月1日 安仁屋政栄死去 佐久原俊子第26回沖展にて沖展賞受賞 7月10日 浦崎永録著『日本近代美術発達史(明治篇)』(東京美術刊)出版
1975	" 50	大城皓也画集出版記念展開催(8月13日～24日)会場 沖縄県立博物館 第1回郷土の女性作家による作品展開催(のち沖縄女流美術家展と改称) 第1回全日本美術協会沖縄支部展開催(沖縄タイムスホール) 7月『大城皓也の世界』(画集)出版「大城皓也の世界」編集委員会 屋富祖盛美第49回国展新人賞受賞
1976	" 51	比嘉武史第18回新象展賞受賞 山田真山歎三等瑞宝章叙勲 宮城健盛旺玄展委員功労賞受賞 上地弘第28回沖展にて沖展賞受賞 4月23日 津山彬死去
1977	" 52	鎌倉芳太郎関係資料(蔵元絵師の画稿)展開催(10月20日～30日)石垣市立八重山博物館主催 1月29日 山田真山死去(91才) 11月4日 山元恵一死去(歎四等旭日小綬章叙勲) 永山信春第6回県展にて県知事賞受賞
1978	" 53	山元恵一遺作展開催(12月6日～15日)会場 沖縄県立博物館 山田真山作「沖縄平和祈念像」(堆錦塑像)完成 与儀達治第12回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞 赤嶺正則第30回沖展にて沖展賞受賞 米須敏三郎第7回県展にて県知事賞受賞 3月31日 『県内絵画遺品調査報告書』(県教育委員会)出版 4月1日 孫億筆「花鳥図」県の有形文化財(絵画)に指定される(喜久村絮輝氏蔵) 『沖縄の偉人山田真山伝』(崎原久著)出版 『美の沖縄一本土俊英作家特別洋画展画集』(琉球新報社)出版
1979	" 54	2月 石嶺伝郎第13回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞 4月9日 殷元良筆「雪中雉子の図」・「花鳥図」県の有形文化財(絵画)に指定される(県立博物館蔵) 4月 石嶺伝郎新世紀美術協会展会員特別賞N氏賞受賞 安谷屋正義回顧展開催(7月18日～29日)会場 沖縄県立博物館 南風原朝光・名渡山愛順遺作2人展開催(11月20日～12月2日)沖縄県立博物館主催 8月28日 沖縄県立総合文化センター(美術館を含む)設立についての答申出る 「沖縄に生きる大嶺政寛の世界」展開催(6月1日～5日)沖縄タイムス社主催 7月15日『名渡山愛順画集』(名渡山愛順画集刊行委員会)出版 永山信春第8回県展にて県知事賞受賞 吉山清晴第31回沖展にて沖展賞受賞 儀間比呂志第14回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞
1980	" 55	

1981	昭和 56	<p>安次富長昭「抽象への展開」展開催(10月5日～15日)会場 沖縄県立博物館 山田真山画伯遺作展開催(10月1日～31日)沖縄平和祈念堂 7月12日 大城皓也死去 2月1日 富川盛智死去 7月 沖縄県美術家連盟結成 与那覇朝大第9回県展にて県知事賞受賞 10月1日 県民アートギャラリー開設(県民文化課) 平和祈念堂美術館開館(財団法人 沖縄平和公園建設協会) 久場トヨ第15回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞 「義村朝義展」開催(1月10日～25日) 沖縄県立博物館主催 「富川盛智遺作展」開催(2月10日～12日) 沖縄タイムス第二ホール 「沖縄現代絵画巨匠展」開催(3月13日～18日)沖縄物産センター画廊 「宮城健盛退官記念展」開催(6月17日～26日)会場 沖縄県立博物館 「沖縄作家5人遺作展」開催(8月15日～昭和57年1月31日)平和祈念堂美術館 『宮城健盛画集』出版(宮城健盛退官記念展実行委員会) 3月31日 末吉安久死去 川平恵造第10回県展にて県知事賞受賞 1月 新生美術協会結成</p>
1982	" 57	<p>⑩昭和57年1月現在作成</p>

(宮城篤正編)